



みのり

発行所 金光教寝屋川教会
〒572-0037 寝屋川市葛原新町 1-11
Tel 072-829-5129
メール koichiyasui@yahoo.co.jp

おかげの器をつくる ～気づき、改まりが大事～

梅雨の季節に入り、どんよりと曇り、小雨の日が多くなっています。5月末の台風では、それまで雨漏りするようなことはほとんどなかったのですが、ご神前裏の廊下で雨漏りがしました。ポトポト漏れてくる水滴の下にバケツを置いて何とか凌いだのですが、こんな漏りは初めてでした。その後、脚立に乗って天井裏をのぞき、排水管のつなぎ目から漏れていると判断し、防水テープを幾重にも巻いて応急修理しました。この体験から、生前の父の姿を思い出しました。それは半そでとステテコの下着姿で教会の大屋根に上り、漆喰の入ったバケツ片手に雨漏りを修理していた姿です。当時の教会は寝屋川市駅前であって、昭和12年に教会が設立された当時の建物で、以後、何度か改築されましたが、大屋根はその当時の建物でした。平屋建てではありましたが、5メートルを超える高さだったかと思います。その大屋根に上って、瓦と瓦との間を漆喰で埋め、黒と白とのコントラストがきれいでしたが、雨漏りを防ぐことはそれほど簡単ではありませんでした。何度も修理しては次の雨天の時に確かめ、それを繰り返していました。それは父が亡くなるまで続いていました。母が教会を後継し、信徒会の皆さんの協力があって大屋根の瓦葺き替え工事を行い、ようやく雨漏りはなくなりました。

ところで、6月の大阪府連盟布教部の講話は「おかげの器をつくる」で、讃題が「……神は平等におかげを授けるけれども、受け物が悪ければ、おかげが漏れる。……」でした。神様からは平等におかげを授けられていても、それを受ける器が悪ければおかげは漏れるということですが、なるほどそうだと納得できます。

6月の布教部宣教の折、講師の山田一郎先生が、「私が正しいとの思い込みが、争いの種」だ



移転前の教会（平成8年頃）

とあるお寺の掲示を紹介されていました。世界に紛争が絶えないのは、国の指導者が自分の考えや為すことに間違いはないとの強い思い込みが原因していることは否めません。

金光教祖は神様に実意丁寧に行き届こうとされながらも「どのようにご無礼しておるか凡夫で相分かりません。ご無礼のところ深くお詫び申し上げます」と詫び抜かれたところから「その方は、行き届いておる」と神様が認められ、「神と人、あいよかけよで立ち行く」道が開かれ、金光教が生まれました。凡夫で相分かりませんと自分を顧みて思い違いに気づき、改まりして、おかげの器の漏れを直すことが大事です。

神様は、身代（財、仕事）、人間（信用）、達者（健康）の上におかげを受け、世のお役に立てることを一番に願われています。『身代』ということでは、お金の無駄遣いはないか、世のお役に立つ仕事ができているかどうか、『人間』ということでは、人から信用を得られるよう約束や時間を守り、相手の立場になって対応できているかどうか、『達者』の面では、適度な運動や睡眠がとれ、食事に偏りがないかどうかなど、受け物に漏れがないかどうかを神様によく願い、足らぬところは足していただき、人の言葉や出来事を通して、気づき、改まりをして、おかげを受け、ご神願成就のお役に立たせて頂きたい願うものです。7月の夏季信行期間、一層におかげを蒙らせて頂きましょう。（教会長）

金光教本部の 教団独立記念祭並びに教主就任式

明治33年6月に一教団として独立できたことを祝い、それ以来、毎年6月に教団独立記念祭が執り行われるようになりました。本年は6月14日(日)に仕えられ、併せて教主就任式が執り行われました。

ご祭事に引き続き、多年教団活動に従事して功労があった教師40人が教主金光様から褒章を受け、また19人が新任教師の輔命を受けられました。教主就任式では、教務総長より「去る3月26日、5年の任期を満了されましたが、全教の願いを受けられ、3月27日、重ねて教主とお立ち下さることになり、引続き本教を統理されると共に、教祖生神金光大神取次の業を伝承し、教統を保全するという、大切な御用にお当たりくださることになりました」との挨拶があり、教主金光様より、「世界の平和と人類の助かり」を祈り、本部広前での御取次の御用にお当たり下さる旨のご挨拶がありました。また全教の教師を代表して教老の佐藤乃武雄師よりお礼のことばが述べられました。

なお、午前11時ごろよりご本部参拝道脇の公園にてストリートライブが開催され、ハイレーズ(連合会有志のバンド、安井光信さんが参加)も加わってロック音楽など、にぎやかに演奏されました。



月例霊神祭時の宣教

日時 6月21日(日)14時より

講師 大阪府連盟布教部講師

片江教会 山田一郎 師

講題 「おかげの器をつくる」

讃題 「天地金乃神は天地を一目に見ている。神は平等におかげを授けるけれども、受け物が悪ければおかげが漏れる。神の徳を十分に受けようと思えば、ままよという心を出さねばおかげは受けられない。ままよとは死んでもままよのことである」

(『天地は語る』234)



御霊様を大事にすることが、おかげの器づくりの一つになると思います。私がよく参拝するお墓の近くに、歴代笑福亭松鶴師匠のお墓があり、いつもきれいな花が供えられています。その墓地の住職の奥様に尋ねると、笑福亭鶴瓶さん夫妻が毎月2度、必ずお参りされ、お花を供えておられるそうで30年余りも続いているとのこと。鶴瓶さんは、実は落語が得意でなく、皆さんもあまり聞かれたことがないでしょう。それでもテレビによく出て、とても人気があります。私は、初代から七代も続いている笑福亭松鶴師匠の代々の御霊を大切にされる心が、人気の元になっていると思うのです。

御霊様を大切にすることということで、もう一つ私の祖母がよく話していたことを紹介させていただきます。祖母は四人姉妹で、みな教会に嫁いでいます。お琴の御用をさせて頂いており、ある時、御本部大祭で典樂の御用を終えての帰りのことです。きっと疲れていたのでしょう。大きなかばんを持って、鶴橋駅の階段を上ろうとしていた時、ある青年が近づいてきて、「おばさん、そのカバンを持ちましょう」と。そして、その場にしゃがんで、「どうぞ背中に

乗ってください」と言うのです。疲れ切っていた祖母は言われるままに、その青年に階段の上まで背負ってもらったそうです。その青年は、「有難うございました。私の祖母によく似ておられたので、思わず祖母に孝行しようと思い、背負わせて頂きました」とお礼を言われたとのことでした。祖母は、御霊を思いやる青年の心が、貴いことだとよく話していました。

令和8年度 金光教全国信徒会 「30日信行」の取組みについてのご案内

全国信徒会活動の一端として、次のように『30日信行』を願っておられます。そのチェックシートのコピーを教会お広前に準備しておりますので、取組みを通し、共々におかげを蒙らせて頂きましょう。

【願い】

教祖150年(7年後)に向けて、一年一年信心の研鑽を重ね、その取組みをお供えさせていただく

【目的】

- ・自分にとって、自身の取組みの本気度を確認できる
- ・家族そろって取り組むことで、信心継承のツールになる
- ・お広前で取組みの声がけにより、連帯感が生まれる
- ・自分が頂いているおかげを改めて思い返し、お礼の気持ちで取り組ませて頂く

【実践項目の設定について】※取組みの一例

- ・家族で取り組める項目を考える
- ・信徒会単位で取り決めて、一緒に取り組む
- ・自己鍛錬のため、目標を決める
- ・全国信徒会の布教実践項目に取り組む

(金光教全国信徒会の布教実践項目)

- 一、家族そろって教会参拝に努めます。
- 一、今を喜び笑顔になる「けいこ」をします。
- 一、人の助かりを願う信心に取り組みます。
- 一、何事も実意丁寧に行います。

7月



日	曜	教会行事予定	教会長、その他	日	曜	教会行事予定	教会長、その他
1	水	月頭祈願祭 14時		16	木		
2	木	夏季30日信行開始 (～31日)		17	金		
3	金			18	土		盆踊り大会 17時～21時
4	土		第五信心共励会 13時半(玉水記念館)	19	日	月例霊神祭・布教部 宣教・14時	
5	日			20	月		
6	月		布教部会 13時半(大阪センター)	21	火		西校区福祉役員会 10時
7	火			22	水		
8	水			23	木	みのり編集会議 10時40分	
9	木			24	金		
10	金			25	土		大阪布教記念日集会 13時
11	土	月例金光大神祭 14時		26	日		
12	日			27	月		
13	月		教会長教師集会 13時(大阪センター)	28	火		
14	火			29	水		布教部講師会 13時半(大阪教会)
15	水		西小福祉授業・9時 大美野教会宣教・14時	30	木		
				31	金	夏季信行終了	

7月のご霊神様

中岡スミエ乃霊(昭和63年7月3日帰幽)
 宇治きみ姫乃霊(平成22年7月15日帰幽)
 植田常男翁乃霊(平成5年7月19日帰幽)

前島巳之宇彦乃霊(昭和29年7月9日帰幽)
 北野熊吉乃霊(昭和28年7月17日帰幽)
 早子ヨシエ乃霊(平成4年7月22日帰幽)

7月のお誕生

安井敬太様、柴田雄介様、上田修様、柴田碧斗様、伊藤梨佐様、
 山下久美子様、加藤渥子様、田村直文様、西村星璃様、加藤晃様、
 安井旭陽様、三浦大治様、佐保吉一様、佐保清美様

みなさま おめでとうございます！



